

【概要】

2014年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用者編】(第1回)

I 調査の概要

本調査は、調査対象期間(2014年3月～2014年6月)に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。(回答数:960件)

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 「全期間固定型」の利用割合は29.4%に微減、「変動型」は39.3%に微増<p. 2>

- ・「全期間固定型」の利用割合は、29.4%(前回調査31.7%)と微減
- ・「固定期間選択型」は、31.4%(前回調査:31.2%)とほぼ横這い
- ・「変動型」は39.3%(前回調査:37.1%)と微増

(注)本調査項目は、隔月に速報として公表している「金利タイプ別利用状況」を、4か月ごとにまとめて確報として集計したものです。

2 今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)は「現状よりも上昇する」が微増<p. 9>

- ・今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)については、「現状よりも上昇する」が37.3%(前回調査:35.0%)と微増し、「ほとんど変わらない」も50.8%(前回調査:48.5%)と微増

3 利用した住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」が圧倒的に多い<p. 14>

- ・利用した住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が68.8%(前回調査:60.6%)と圧倒的に多く、前回調査と比べて増加
- ・「将来の返済額を確定しておきたかったから」の順位は前回調査と同様に4位であるが、前回調査と比べて微増